

I.3 調査の方法

1. 各調査の概要

EASS 2018 には日本・韓国・台湾・中国の各調査チームが参加している。表 1 は各国・地域における調査の概要をまとめたものである。

表 1 各調査の概要

	日本	韓国	台湾	中国
調査名	日本版総合的社会調査 Japanese General Social Surveys (JGSS)	Korean General Social Survey (KGSS)	台湾社会変遷調査 Taiwan Social Change Survey (TSCS)	中国総合社会調査 Chinese General Social Survey (CGSS)
調査主体	大阪商業大学 JGSS 研究センター(協力: 東京大学社会科学研究所(E06-12)、京都大学大学院教育学研究科(E16 以降))	成均館大学 Survey Research Center・ソウル大学 Institute for Social Development and Policy Research	中央研究院社会学研究所	中国人民大学中国調査与数据中心
研究代表(現)	岩井 紀子	KIM, Jibum	吳 齊殷	王 衛東
EASS 事務局担当	2008-09/2020-21	2004-05/2012-13/ 2016-17	2006-07/2014-15/ 2018-19	2010-2011
担当 モジュール	EASS 2010/2020	EASS 2006/2016	EASS 2008/2014/15/2018	EASS 2012
調査対象	20~89 歳の男女	18 歳以上の男女	18 歳以上の男女	18 歳以上の男女
抽出方法	層化 2 段無作為抽出	層化 3 段無作為抽出 (2016 以降は層化 4 段)	層化 3 段無作為抽出	層化 4 段無作為抽出
調査方法	面接・留置法の併用	面接法	面接法	面接法
調査頻度	2000 から 1~3 年間隔: J03/06-12 は留置 2 種類	2003 から毎年 (2015 以外)	1984/85 から毎年; 1990 以降は 2 種類	2003 から毎年

(資料) JGSS, KGSS, TSCS, CGSS 各ウェブサイト。

4 カ国・地域の調査は、それぞれ以上のような特徴を有している。また、調査方法については JGSS が面接法と留置法を併用しているのに対して、KGSS、TSCS、CGSS では面接法のみが用いられている。一方で、いずれの調査も GSS をプロトタイプとしており、全国規模の調査を継続的に実施している点で共通している。

各調査の詳細については、下記のウェブサイトをそれぞれ参照されたい。

日本 (JGSS) : 大阪商業大学 JGSS 研究センター (<https://jgss.daishodai.ac.jp/>)

韓国 (KGSS) : 韓国総合社会調査 (<http://kgss.skku.edu/>)

台湾 (TSCS) : 台湾社会変遷調査 (<https://www2.ios.sinica.edu.tw/sc/>)

中国 (CGSS) : 中国総合社会調査 (<http://cgss.ruc.edu.cn>)

2. 2018 年調査の方法

EASS 2018 モジュールが組み込まれた調査は、2017 年 11 月から 2019 年 2 月までの間に各国・地域で相次いで実施された。表 2 はそれぞれの調査の方法をまとめたものである。

表 2 日本・韓国・台湾・中国チームが EASS 2018 モジュールを組み込んだ調査の方法

	日本		韓国	台湾	中国
	JGSS-2017G	JGSS-2018G	KGSS 2018	TSCS 2018	CGSS 2018
実施時期	2017 年 11-12 月	2018 年 11-12 月	2018 年 6-10 月	2018 年 7 月 ～2019 年 2 月	2018 年 6-12 月
調査方法	留置法		面接法	面接法	面接法
調査対象	20～89 歳の男女		18 歳以上の男 女	18 歳以上の 男女	18 歳以上の男 女
抽出方法	層化 2 段 無作為抽出		層化 4 段 無作為抽出	層化 4 段 無作為抽出	層化 3 段 無作為抽出
計画標本	1,500	1,200	2,400	4093	6,500
有効回答 数	860	678	1,031	1,961	4,499
回収率 ¹⁾	64.0%	62.7%	43.0%	47.9%	69.2%

1) 各チームが報告している値に基づいており、算出方法は異なる。詳細については I.4 の Study Description Form を参照のこと。

上記のように、それぞれの調査の間では、調査の実施時期・調査方法・調査対象・計画標本の大小という面で違いがある。韓国チームと中国チームは EASS 2018 モジュールを組み込んだ全国調査を 2018 年に、台湾チームは 2018 年～2019 年に、日本チームは、2017 年と 2018 年に実施した。いずれの調査も成人人口をほぼカバーしている。

調査方法の詳細については、I.4 に各国・地域の Study Description Form（調査概要）、I.5 に Study Monitoring Questionnaire（調査方法の詳細）がそれぞれ掲載されているので、参照されたい。

佐々木 尚之